

# 大人計画公演 ゲームの達人

1990年4月18日〜22日 下北沢駅前劇場(初演)  
1993年8月27日〜9月6日 下北沢ザ・スズナリ(再演)

## キャスト

温水洋一……………表一

伊勢志摩……………真一/魚屋

阿部サダヲ……………絵師屋/一輪車男/お父さんキング

青島寒月……………衛兵1/社長/飼育係/日本キング/ボックスをぶ

宮藤官九郎……………む男/カフス/クリちゃん/ケチャ1/男3/王妃

片葉みはる……………衛兵2/火男/男1/銀の一号/ユーモア同好会A

宮本密……………侍従長飯面/先生/天皇飯面/宮藤/電気屋

山本密……………スナヒガイモドキ2/道化師

池津祥子……………少女3/山田/サルン11世

鈴木麻王……………少年1/火女/コモドオオトカゲ3/ドバシ/シズ

久留蝶丸……………タイズロ/スナヒガイモドキ1/準ミス福島

正名僕蔵……………少年1・2/女子社員2/コモドオオトカゲ3/ドバ

小林達也……………シ/シズタイズロ/ミス鬼狗屋

松尾スズキ……………※池津祥子鈴木麻王はダブルキャスト

町田まこと……………少年2・3/女子社員1/シズタイズロA/アシスタン

猫背椿……………ト/看護婦/占い師

顔田顔彦……………少年3・4/ミキ/アシスタント/ユーモア同好会C

宮崎吐夢……………生徒2/客2/アマゾンズ

立石明石……………上田/コモドオオトカゲ1/鈴木/客1/ガキ/少

久留蝶丸……………女/男/太鼓男2/芸術家

正名僕蔵……………チャン/悪魔/コモドオオトカゲ2/先輩/生徒1

小林達也……………夕焼け番長/侍従B/男1/スナヒガイモドキ3

松尾スズキ……………/宮崎

山本密……………課長/司会/天皇飯面/医者/山本

立石明石……………鈴木/衛兵2/評論家/世界キング/チエック神父

久留蝶丸……………/王選手/ヨッチャン/ケチャ2/男2/奴隷

正名僕蔵……………サタケ/アナウンサー/太鼓男1

小林達也……………クモ/佐藤/衛兵2/川上選手/社員/マーちゃん

松尾スズキ……………侍従A/男4/ドラ男

小林達也……………後輩/健一

松尾スズキ……………男2/東京キング/モヤイダ/父/カマチ

## あとがき

これは今ある日本とは別な日本の昭和史をやるうっていう話。この頃って昭和が終わった直後で、そういう意味ではタイムリー。わりと僕、西暦に弱くて、昭和とか平成とかの年号の区切りにこだわったりするもんだから、昭和がなくなっていくのが、さみしいというのがあったんじゃないかな。

この話は自分でもよくできてると思う。再演もしてるけど、古い作品の中では一番わかりやすくおもろい気がします。ちよつとヴォネガットテイストも入ってますね。八十年代にディック・スピリッツなんて言って、演劇界でフィリップ・Kディックがもてはやされた時期があって、僕はヴォネガットで行こうって思ったので。ま、ヴォネガット、ヴォネガットって言っても、モンティ・パイソンとかマルクス兄弟の映画とか、他にもいるんなら影響されてるんですけどね。この頃は、無秩序にそういう影響を入れるっていう時期だったのかもしれない。自分でもわからないくらいに濾過しきってからやらないと、ただの受け売りになっちゃうとは思うけど。

でもヴォネガットの『タイタンの妖女』っていう小説があって、人間が争いごとをやめさせるために、火星にパーッと人間をさらって行って、火星人だっということして地球を攻撃させることになって、地球全体の和をとるもとうっていう話なんですけど、すごい巨大でかつブラックユーモア的でおもしろいって思っ、多分それでこれにも火星が出てくるんですよ。

で、火星に行った主人公が地球に帰ってきた時に、天皇が竹槍でUFOを迎え撃って、それが昭和天皇が死んだ理由っていうオチにして。そういう意味では、昨今の天皇ブームに——『バンドラの鐘』とか『天皇に接吻』とか、最近評価受けたの、天皇ものが多かったでしょ——さきかけてたと思うんだけど笑。まあ、客があんまり集まってる時代だからできたのかもしれないですけどね。

この作品にもこの前後の作品にも、身体障害者みたいなのは出てきてますね。ただ単純にそういうのをやってるものがなかったから。テレビで見れないものをやるうっていうのもあったし。今は当時とは別の意図で出してるんだけど、その頃は差別ネタって言われてもしょうがないっていう部分は確かにありましたね。若さにまかせてやっちゃった部分もあるし。

あと、人が多くなると対個人的な話から集会みたいなことになっていくわけじゃないですか。それによって人間の言葉ってどんどんセイブあるいは洗練されていくものだから、そういう意味でこれからなくなっていくんじゃないかな。要するに客が少なかったっていうのもあるんじゃないかしら。

まあ、減る減らないにしろ、やることの意味は変わってきてますね。身体の欠損したものを出す意図が、昔のように笑ってということだけじゃなくて、もう少し別な意味があるんだって思います。無常観っていうか、社会の中にこういう人たちがいるのが当たり前であって、とりたてて隠す必要はないという意図によって出しているっていうのが本音なんですけどね。昔はとりたてて強調していたっていうのがあるんだけど、今は健康である人間も健康でない人間も平等に板に乗せるっていうことを意図してやっていますね。

それは逆に言うって、昔、無秩序にやっていたことへの、ちよつとしたみそぎでもあると自分では思っています。だからここで完全にやめちゃうと、みそぎにならない訳です。まあ、今もそんなに悪いこととは思ってなくて、表現っていうのは何があっても自由なんだっていう根っ子は持ち続けていきたいんですけど。ただまあ、過激と受け取られるだけで終わるのは非常に不毛なのでそのへんは少し狡猾にやっています。